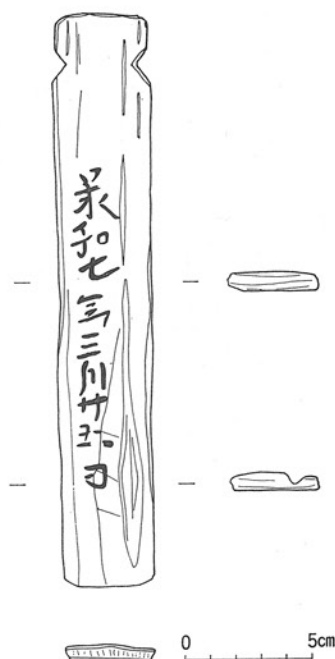


鵜島三壽「千代川遺跡 第13次」(勸京都府埋蔵文化財調査研究センター『京都府埋蔵文化財情報』第二八号 一九八八年)

(土橋 誠)



京都・矢谷遺跡

1 所在地 京都府天田郡夜久野町大字板生(今西)小字矢谷

2 調査期間 一九七三年(昭48)四月

3 発掘機関 (表面採集)

4 調査担当者 安橋富男(発見者)

5 遺跡の種類 不明

6 遺跡の年代 不明

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

矢谷遺跡は、板生谷と呼ばれる谷のほぼ最奥部にあり、牧川左岸側の尾根の比較的緩かな傾斜の突端に位置する。地表に口縁部を露出した陶質の壺の中に、銅鏡一面の表裏を保護するような形で二枚の杉材の円板が重ねられており、この円板から文字が発見された。

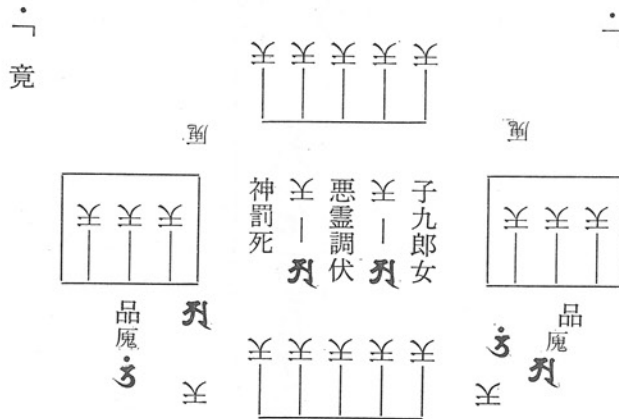


(出 石)

壺は口縁のつくりから鎌倉時代末頃のものと考えられ、壺を埋めるための施設などはみられず、地山に直接埋

8 木簡の釈文・内容

(1)



直径100・厚3~4

$$(2)$$

志

龍王九頭龍王

竟□□□□□者子七郎女

護郡魂執心六

☐ ☐ ☐ 死人 ☐ 護法 ☐ 神 ☐ ☐ 合 ☐

龍急々如律

□調伏惡靈於神罰真罰

□諸病者□平道之施主□恩

人仍早

應永□寅二月廿二日
□□

施主□□敬白

龍靈惡調伏

径100・厚3~4

9
関係文献

衣川榮一「夜久野町板生出土の中世遺物」《京都考古》二四号（一九七六年）

(衣川榮一)